

## 第4章 指導計画の作成及び幼児理解に基づいた評価に関する資料

### 第1節 指導計画の考え方

#### 第1 教育課程と指導計画

幼稚園教育要領の第1章第4の1では、指導計画の考え方として「幼稚園教育は、幼児が自ら意欲をもって環境と関わることによりつくり出される具体的な活動を通して、その目標の達成を図るものである。幼稚園においてはこのことを踏まえ、幼児期にふさわしい生活が展開され、適切な指導が行われるよう、それぞれの幼稚園の教育課程に基づき、調和のとれた組織的、発展的な指導計画を作成し、幼児の活動に沿った柔軟な指導を行わなければならない。」と示している。

教育課程は、幼稚園の教育目標に向かい、どのような道筋をたどっていくかを明らかにした計画であり、入園から修了までの教育期間の全体を見通したものである。その実施に当たっては、幼児の生活する姿を捉え、それぞれの発達にふさわしい生活が展開されるようにすることが必要である。

そこで、教育課程を具体化し、さらに具体的なねらいや内容、環境の構成、教師の援助等、指導の順序や方法などを示したものが指導計画である。指導計画には、年・学期・月などの長期間の指導の見通しを表した長期の指導計画と、週・日などのより具体的な幼児の生活に即した短期の指導計画とがある。計画の期間が短くなるにつれ、幼児の生活する姿をより具体的に把握できるため、学級や幼児の実態に即した具体的な指導計画となる。

幼稚園における教育活動は、教育課程によって全体の見通しをもちながら、指導計画によってそれぞれの発達にふさわしい生活を展開し、教育目標に向けた幼児の育ちを支えていくことになる。

#### 第2 指導計画と具体的な指導

指導計画は、一人一人の幼児が必要な体験を得ることができるように、教育課程を具現化して作成するものである。長期・短期の指導計画にはそれぞれの特徴があるため、各園ではいくつかの期間の指導計画を組み合わせながら教育活動を行っている。作成する指導計画の種類は、園の実態及び幼児の実情によって各園で決める。

作成に当たっては、幼児の実情を十分に踏まえ、具体的なねらいや内容、環境の構成、教師の援助などといった指導の内容や方法を明らかにしていく。しかし、どんなに綿密に考え抜いた計画であったとしても、指導計画はあくまでもあらかじめ考えた仮説である。幼稚園生活においては、幼児が自ら環境に関わって活動を展開するため、教師の予想と実際の幼児の姿が異なっていることもよく見られる。

実際の指導を行う際は、幼児の発想や活動の展開を大切にしながら、ねらいや内容を修正したり、環境を再構成したり、教師が必要な援助を行ったりするなど、計画を柔軟に修正しながら保育を展開していくことが必要になる。短期の指導計画に修正を加えながら日々の実践を積み重ねることにより、長期の指導計画や教育課程も見直し、改善につなげていかなければならない。

### 第3 指導計画作成上の基本的事項

#### 1 発達の理解

発達を理解することは、それぞれの幼児がどのようなことに興味や関心をもってきたか、興味や関心をもったものに向かって自分のもてる力をどのように発揮してきたか、友達との関係はどのように変化してきたかなど、一人一人の発達の実情を理解することである。また、学級や学年の幼児がどのような時期にどのような道筋で発達しているかという発達の過程を理解することも必要になる。その際、幼児期はこれまでの生活経験により発達の過程の違いが大きい時期であることに留意し、一人一人の発達の特性を踏まえて、指導計画に位置付けていくことが必要である。

なお、幼児の発達は、日々の生活での具体的な事物や人々との関わりなどの環境を通して促されるものであるため、幼稚園における環境は、幼児期の特性に照らし、ふさわしいものでなければならない。そこで、教師は幼児と共に生活しながら、幼児の育ちや必要な経験などを幼児の生活する姿に即して具体的に理解することが大切である。

#### 2 具体的なねらいや内容の設定

具体的なねらいや内容を設定する際には、「その時期の幼児の発達する姿に見通しをもつこと」「その前の時期の指導計画のねらいや内容がどのように達成されつつあるか、その実態を捉えること」「その次の時期の幼稚園生活の流れや遊びの展開を見通すこと」が大切である。

生活の実態を理解する視点としては、幼児の興味や関心、生活や遊びへの取り組み方の変化、教師や他の幼児との人間関係の変化、自然や季節の変化など、様々なものが考えられる。

#### 3 環境の構成

指導計画を作成し、具体的なねらいや内容として取り上げられた事柄を幼児が実際の保育の中で経験することができるように、適切な環境をつくり出していくことが重要である。環境の構成を考える際には、場や空間、物や人、身の回りに起こる事象、時間などを関連付けて、幼児が必要な経験を得られるような状況をどのようにつくり出していかを考えることが中心となる。

また、いつも教師が環境をつくり出すのではなく、幼児もその中において必要な状況を生み出すことを踏まえることも大切である。幼児の気付きや発想を大切にしたり、幼児のつくり出した場や物の見立て、工夫などを取り上げたりして環境を再構成し、どのように生活の中に組み込んでいかを考えると重要となる。

#### 4 活動の展開と教師の援助

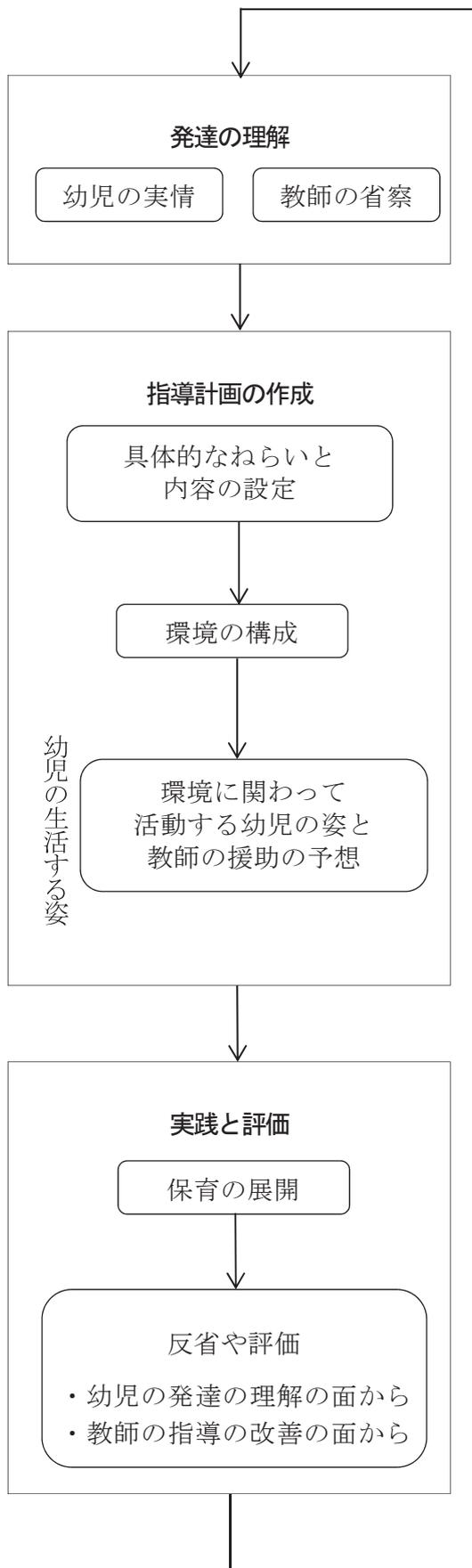
幼児は、具体的なねらいや内容に基づいて構成された環境に関わって、興味や関心を抱きながら様々な活動を生み出していく。しかし、ときにはやりたいことが十分できなかったり、途中で挫折してしまったり、友達との葛藤などにより中断してしまったりすることもある。このような場合に、活動のどのような点で行き詰まっているのかを理解し、教師が必要な援助をすることが重要である。

幼児の活動を理解するということは、活動が適当か、教師の期待した方向に向かっているかを捉えることだけではない。むしろその活動を通して、そこに関わる幼児一人一人がどのような体験を積み重ねているのか、その体験がそれぞれの幼児にとって充実していて発達を促すことにつながっているのかを把握することが重要である。教師はそれに基づき、状況に応じた多様な関わりをすることが求められる。

#### 5 反省・評価と指導計画の改善

幼稚園における指導は、幼児の発達の理解に基づく指導計画の作成、環境の構成と活動の展開、幼児の活動に沿った必要な援助、反省や評価に基づいた新たな指導計画の作成といった循環の中で行われるものである。指導計画は、このような循環の中に位置し、常に指導の過程について実践を通して反省や評価を行い、改善が図られなければならない。

保育における反省や評価は、指導の過程の全体に対して行われるものであり、「幼児の発達の理解」と「教師の指導の改善」の両面から行うことが大切である。



### 長期の指導計画

累積された記録、資料を基に発達の過程を予測する。

教育課程によって、教育の道筋を見通しながら、幼児の生活を大筋で予測し、その時期に育てたい方向を明確にする。

ねらい、内容と幼児の生活の両面から、環境を構成する視点を明確にする。

季節など周囲の環境の変化を考慮に入れ、生活の流れを大筋で予想する。

短期の指導計画の反省や評価などを積み重ね、発達の見通し、ねらい、内容、環境の構成などについて検討し、計画の作成に役立つ。

### 短期の指導計画

幼児の実態を捉える。  
 ・ 興味や関心  
 ・ 経験していること  
 ・ 育ってきていること  
 ・ つまずいていること  
 ・ 生活の特徴

前週や前日の実態から、経験してほしいこと、身に付けることが必要なことなど、教師の願いを盛り込む。

具体的なねらいや内容と、幼児の生活の流れの両面から、環境の構成を考える。

環境に関わって展開する幼児の生活をあらかじめ予想する。

幼児と生活を共にしながら、生活の流れや幼児の姿に応じて、環境の再構成などの適切な援助を行う。

幼児の姿を捉え直すとともに、指導の評価を行い、次の計画の作成につなげる。

## 第4 指導計画作成上の留意事項

幼稚園教育は、幼児が自ら意欲をもって環境と関わることによりつくり出される具体的な活動を通して、その目標の達成を図るものである。幼稚園教育要領第1章第4の3には、指導計画作成上の留意事項として、以下の8点が示されている。

### 1 長期の指導計画と短期の指導計画

長期的に発達を見通した年、学期、月などにわたる長期の指導計画やこれとの関連を保ちながらより具体的な幼児の生活に即した週、日などの短期の指導計画を作成し、適切な指導が行われるようにすること。特に、週、日などの短期の指導計画については、幼児の生活のリズムに配慮し、幼児の意識や興味の連続性のある活動が相互に関連して幼稚園生活の自然な流れの中に組み込まれるようにすること。

### 2 体験の多様性と関連性

幼児が様々な人やものとの関わりを通して、多様な体験をし、心身の調和のとれた発達を促すようにしていくこと。その際、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現するようにするとともに、心を動かされる体験が次の活動を生み出すことを考慮し、一つ一つの体験が相互に結び付き、幼稚園生活が充実するようにすること。

### 3 言語活動の充実

言語に関する能力の発達と思考力等の発達が関連していることを踏まえ、幼稚園生活全体を通して、幼児の発達を踏まえた言語環境を整え、言語活動の充実を図ること。

### 4 見通しや振り返りの工夫

幼児が次の活動への期待や意欲をもつことができるよう、幼児の実態を踏まえながら、教師や他の幼児と共に遊びや生活の中で見通しをもったり、振り返ったりするよう工夫すること。

### 5 行事の指導

行事の指導に当たっては、幼稚園生活の自然の流れの中で生活に変化や潤いを与え、幼児が主体的に楽しく活動できるようにすること。なお、それぞれの行事についてはその教育的価値を十分検討し、適切なものを精選し、幼児の負担にならないようにすること。

### 6 情報機器の活用

幼児期は直接的な体験が重要であることを踏まえ、視聴覚教材やコンピュータなど情報機器を活用する際には、幼稚園生活では得難い体験を補完するなど、幼児の体験との関連を考慮すること。

### 7 教師の役割

幼児の主体的な活動を促すためには、教師が多様な関わりをもつことが重要であることを踏まえ、教師は、理解者、共同作業など様々な役割を果たし、幼児の発達に必要な豊かな体験が得られるよう、活動の場面に応じて、適切な指導を行うようにすること。

### 8 幼稚園全体の教師による協力体制

幼児の行う活動は、個人、グループ、学級全体などで多様に展開されるものであることを踏まえ、幼稚園全体の教師による協力体制を作りながら、一人一人の幼児が興味や欲求を十分に満足させるよう適切な援助を行うようにすること。

## 第5 幼児理解に基づいた評価の実施

### 1 評価の実施

評価の実施に当たっては、指導の過程を振り返りながら幼児の理解を進め、幼児一人一人のよさや可能性などを把握し、指導の改善に生かすようにすることが重要である。「評価」という語は、優劣を決めたり、ランクを付けたりする成績表のようなイメージで受け止められることがある。しかし評価を実施する際、他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意する必要がある。

幼稚園において、評価は欠くことのできないものであり、適切な教育は適切な評価によってはじめて実現できるものである。幼稚園における評価は、第3で示したように「幼児の発達の理解」と「教師の指導の改善」の両面から行われるものであり、決して幼児を他の幼児と比較して優劣をつけて評定することではない。保育の中で幼児の姿がどのように変容しているかを捉えながら、そのような姿が生み出されてきた様々な状況について適切かどうかを検討して、保育をよりよいものに改善するための手掛かりを求めるものである。

### 2 評価の妥当性や信頼性の確保

各園には、評価の妥当性や信頼性が高められるよう創意工夫を行い、組織的かつ計画的な取組を推進することが求められている。評価を行う際の取組の工夫として、次のようなことが挙げられる。

- ・参考となる情報（日々の記録、エピソード、写真など）を生かしながら評価を行う
- ・複数の教職員で、それぞれの判断の根拠となっている考え方を突き合わせ、幼児のよさを捉える
- ・評価に関する園内研修を行う
- ・日頃から保護者に伝え、家庭との連携に留意する

また、幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」（平成22年7月改訂文部科学省）では、具体的な幼児理解の方法として、次のことを取り上げている。

- ・幼児とのふれあいを通して、幼児との相互理解を深める
- ・幼児が生活する姿の記録を工夫する
- ・多くの目で幼児を見る
- ・家庭からの情報を活用する

一人の教師の目に映った幼児の姿は、それぞれの幼児のごく一部である。また、教師自身の見方や考え方によって、その姿の見え方は違ってくる。幼児の姿をより多面的に捉えるためには、複数の教師が連携・協力し、多くの目で見たことを重ね合わせていくことが必要である。

### 3 保育と評価の一体化と指導の継続

幼児の発達の状況については、単年度ではなく、入園から修了までの教育期間全体にわたって引き継がれていくことが大切である。また、園長は、幼児の指導要録の抄本又は写しを作成し、これを小学校の校長に送付しなければならないこととなっている。（学校教育法施行規則第24条②）このような関係法令も踏まえ、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るため、幼稚園において記載した指導要録を小学校に適切に送付したり、指導要録以外の資料や記録を活用したりするなどして、小学校と情報を共有できるよう工夫していくことが必要である。

指導要録は、幼児の発達の特性と指導の過程を明確に捉え、保育と評価の一体化を図っていくためのものである。その作成に当たっては、日常の保育の連続上のものであることに留意する。次年度、その幼児の特性を踏まえた適切な指導が受けられるように、一年間の指導の過程の中で捉え続けた必要な情報を年間の記録としてまとめ、次の担任へ、さらに小学校へとつなぐ必要がある。

保育を評価することを通して、幼児理解を深めたり、教師の指導と幼児の発達する姿の関係に気付いたりし、指導を改善していくことができる。指導要録やその他の情報を幼児に対するよりよい指導を生み出すための資料として捉え、保育と評価の一体化と指導の継続を図ることが重要である。

## 第2節 長期の指導計画の作成

### 第1 長期の指導計画

長期の指導計画は、各園の教育課程に基づき幼児の生活を長期的に見通しながら、具体的な指導の内容や方法に関して、年・学期・月などにわたって立てた計画である。これまでの実践の評価や累積された記録などを生かして、各園における幼児の発達の過程を見極め、長期的なねらいや内容、環境を構成する際の視点や指導上の留意点などを明らかにしたものである。

### 第2 長期の指導計画作成上の留意事項

#### 1 教育時間への配慮

幼児は、特定の時期（入園・進級時、短縮保育期間、行事の多い時期）や天候・季節の変化に影響を受けやすいため、教育時間の設定には十分な配慮が必要である。

#### 2 園内の協力体制

園生活の全体を視野に入れ、学年や学級の間で連携しながら、一人一人の幼児が興味や欲求を十分満たすための適切な援助ができるよう、全職員の協力の下に作成する。

#### 3 行事に関する配慮

遠足・運動会など、それぞれの行事の意味を考えながら幼児の活動意欲を高め、幼児同士の交流を盛んにするなど、発達を促すために役立つように位置づけ、見通しをもって実施することが大切である。

また、園生活の自然の流れの中で生活に潤いや変化を与え、幼児が主体的に楽しく活動できるようにそれぞれの時期にふさわしい行事を精選し、幼児の負担にならないようにする。

避難訓練・健康診断といった保健安全に関する行事や、伝承行事・遊び、異文化交流など家庭や地域社会の行事にも配慮する。

#### 4 地域社会との連携

園内外の自然環境や地域の公園、利用可能な施設の活用、祭りや地域の行事への参加など、家庭や地域社会との連携を図りながら、見通しを立てて長期計画の中に位置付けていくようにする。

#### 5 幼児理解に基づいた評価と小学校教育への円滑な接続

幼児の日々の記録やエピソード・写真など、参考となる情報を生かして、幼児一人一人の発達の理解に基づいた評価を実施できるよう、複数の教職員で組織的かつ計画的に取り組むと共に、小学校にその内容が適切に引き継がれるようにする。

### 第3 長期の指導計画の例

各園においては、園の教育課程を具体化して、一年間の指導を見通した年間指導計画を作成する。その年間指導計画に沿って保育を展開しながら、幼児の実態に即して修正しながら、期、学期、月などの指導計画を作成することとなる。

〈教育課程〉 3年保育

教育目標	健康で豊かな心を育てる		
	発達の過程	ねらい	内容
九期 4歳児 11～12月	<ul style="list-style-type: none"><li>友達と一緒に遊びを進める楽しさを感じるようになる時期。</li><li>やりたい遊びに熱中して取り組むようになる時期。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>自分の思いや考えを出しながら、友達と関わり合って遊んでいこうとする。</li><li>身の回りの素材を使って、考えたり試したりして遊ぶことを楽しむ。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>気の合う友達と遊ぶ中で、イメージを出し合ったり、役割を決めたりする。</li><li>簡単なルールのある遊びの面白さを知り、繰り返し遊ぶ。</li><li>遊具や用具、素材などを組み合わせながら遊ぶ。</li></ul>



次頁〈年間指導計画へ〉

〈年間指導計画〉 3年保育 4歳児

年間教育目標	○様々な環境に関わることを通して、自分から進んで活動する。 ○自然に触れて生活していく中で、美しさや不思議さ、偉大さなどを感じる。		
	幼児の姿	○ねらい ■内容	環境構成
4歳児 11～12月	○友達と一緒に遊びを進めるようになる。 ・自分の考えを出せるようになる反面、友達との衝突が生じることがある。 ・大勢でのゲームなどを喜び、進んで参加するようになる。 ○やりたい遊びに熱中して取り組むようになる。 ・自分なりのめあてをもち、遊びを継続するようになる。	○自分の思いを出しながら、気の合う友達と関わっているいろいろな遊びに取り組む。 ■自分のイメージをもち、興味のある遊びにじっくり取り組む。 ■ルールのある遊びの面白さを知り、大勢と一緒に遊ぶ。 ○秋の自然に親しみ、自然物を使って考えたり試したりして遊ぶ。 ■秋の自然物に触れ、感触を味わい、それらを使ったごっこ遊びを楽しむ。	・友達との関わりがさらに生まれるように、きっかけとなる遊具や用具、材料を準備しておく。 ・集団で楽しめる遊びを取り入れて、教師も遊びに加わり、ルールを守るとさらに楽しくなることを知らせていく。 ・身近な所にも自然物が落ちていることに気付けるよう、絵本や図鑑などを準備して、興味や関心を高める。



〈月の指導計画〉 11月

幼児の実態 (10月の幼児の姿)	・気の合う友達と一緒に過ごす楽しさがわかり、友達の後を追ったり、言葉や物のやり取りをしたりしながら遊んでいる。一方で、自分の思い通りにならないことがあると、トラブルが生じることがある。 ・運動会の経験から、体を動かすことや、友達とチームに分かれて競い合うことへの興味や関心が高まっている。また、友達と一緒に走ることも楽しんでいる。 ・園内外の秋の自然物を集めて観察したり、遊んだりしている。		
	○ねらい ■内容	環境の構成・教師の援助	
	○気の合う友達と関わる中で、自分の思いを出そうとする。 ■気の合う友達と一緒に遊び、遊びの中で自分の思ったことや考えたことなどを言葉や動きで伝え合う。 ■友達と一緒に簡単なきまりやルールを守って、遊びを楽しむ。 ○様々な運動遊びに興味をもち、体を動かして遊ぶ心地よさを味わう。 ■長縄跳び、鬼遊び、伝承遊びやわらべうたなどをみんなと一緒に楽しむ。 ○自然物を遊びに取り入れ、秋の自然に親しむ。 ■サツマイモや秋野菜の収穫を楽しむ。 ■木の実や木の葉などに触れ、感触を味わい、ごっこ遊びを楽しむ。	・自分たちで遊び場を作ったり、作りかえたりしていけるよう、積木や段ボール箱など、持ち運びやすい用具を準備しておく。 ・遊び場は、数日続けて使うことにより、遊びが発展していくこともあるため、継続して使えるよう片付け方に配慮する。 ・ごっこ遊びを行う中で必要になったものを取り入れたり、自分のイメージに合わせて作ったりできるよう、幼児の希望に応じて多様な素材を提供する。 ・戸外での活動を十分行えるよう、遊具を設定したり、教師が率先して戸外へ出たりして遊びに誘う。 ・長縄跳びやしっぽ取り鬼などは、幼児だけでは遊びが続かないことがあるため、教師が加わることによりルールのある遊びをみんなでする楽しさを体験できるようにする。「だるまさんが転んだ」や「はないちもんめ」などの伝承遊びも取り入れる。 ・サツマイモや秋野菜の収穫の体験を通して、感触や形、大きさの違いなど幼児の気付きに教師も共感し、自然に対する興味や関心を高める。 ・紅葉した木の葉や木の実などの美しさに触れて感動したり、自然物を使って遊んだりする姿を受け止め、充実感を味わわせる。	
保護者・地域との連携	・保護者の保育参加 ・地域の公民館祭りへの参加 ・中学生の職場訪問		

## 第3節 短期の指導計画の作成

### 第1 短期の指導計画

短期の指導計画は、長期の指導計画を基に見通しをもちながら、より具体的な幼児の生活に即して作成する週案や日案などである。幼児の生活する姿から一人一人の幼児の興味や関心、発達などを捉え、ねらいや内容、環境の構成、援助などについて実際の幼児の姿に直結して具体的に作成するものである。

### 第2 短期の指導計画作成上の留意事項

#### 1 長期の指導計画との関連

- ・長期の指導計画におけるねらいと内容を受けて、これらと関連をもちながらより具体的かつ適切に指導が行われるよう、幼児の生活のリズムに配慮し、幼稚園生活の自然な流れの中に組み込まれるよう計画する。
- ・短期の指導計画は、原則として学級担任が作成するものであるが、幼児の生活する姿を正確に捉えるためには、幼稚園全体の協力体制の下に教師間の情報や意見の交換を大切にする。

#### 2 幼児の主体性に基づいた指導

- ・幼児が周囲の様々な人やものとの関わりを通して、主体性を発揮し、充実した幼稚園生活ができるよう、幼児一人一人の特性に応じて発達の課題に即した指導ができるように配慮する。
- ・幼児の主体的な活動を促すために、教師が多様な関わりをもつことが重要であることを踏まえ、教師はよき理解者・共同作業などの様々な役割を果たすことで幼児の発達に必要な体験が得られるように、その場その場に応じて適切な援助をする。

#### 3 保育のつながりへの意識

- ・週（日）案は、前週（前日）から今週（今日）への生活の流れを大切にして作成する。幼児が様々な体験をする中でそれぞれの体験がつながりを持ち、次の活動を生み出す原動力となって幼稚園生活が充実したものになるよう配慮する。
- ・日々の指導の反省・評価は、その後の指導計画の作成や指導法の改善などに役立つ資料となる。指導計画を作成する時点で、反省・評価の観点やその方法を予測し、次へのつながりを意識できるように工夫する。

#### 4 現代的課題を踏まえた教育内容の充実

- ・言語能力が思考力の発達に関わることを踏まえて、言葉で伝え合ったり、絵本や物語、言葉遊びに親しんだりする中で豊かな感性や表現力を養うことを大切にする。
- ・視聴覚教材やコンピュータなどの情報機器を活用する際は、あくまでも幼稚園生活での得難い直接体験を補完する意味で取り扱うようにする。

#### 5 個別の配慮を踏まえた計画

- ・学級担任は、教育課程に係る教育時間終了後に希望する者を対象に行う教育活動を利用する幼児について、担当教師や保護者と緊密な連携をとりながら、幼児の心身の負担にならないよう配慮する。
- ・集団生活の中で、障害のある幼児との育ち合いを大切にし、家庭や地域・専門機関と連携して幼児一人一人の障害の状態や発達の段階等に応じた個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成するなど、支援体制を充実させる。

### 第3 短期の指導計画の例

#### 1 週の指導計画（週案）から一日の指導計画（日案）作成への過程

ここでは、3年保育5歳児1月の保育について、週の指導計画から一日の指導計画に具体化していく過程の一例を示す。週の指導計画及び一日の指導計画の例は、69頁～71頁を参照のこと。

##### 週の指導計画（要点）

ねらい	○友達と生活する中で、互いの気持ちを考え合ったり、友達のよさに気付いたりしていく。 ○自分なりの目的をもってじっくりと遊びに取り組み、達成感や満足感を味わう。
内容	○友達と思いや考えを伝え合い、一緒に遊びや活動を進める。 ○繰り返し挑戦したり、試したりしながら遊ぶ。
環境構成・ 援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・霜柱や氷を見ついたり、氷作り等を楽しんだりする中で、冬の自然に関心を深められるように、幼児の気付きや発見に寄り添い、耳を傾けて、学びや遊びが豊かになるよう関わる。</li> <li>・リレーやドッジボールなどの競い合う遊びをする中で、共通の目的をもって楽しめるように、作戦会議と称して皆で意見を出し合う機会をつくり、遊びを深める。</li> <li>・こま回しや縄跳び等に繰り返し挑戦し、自分の目標に向けてがんばる姿を周囲に伝えることで友達同士が刺激し合えるようにする。</li> <li>・小学校の「遊びの会」での小学校1年生との関わりをきっかけに、意欲を高められるようにする。</li> <li>・友達の得意なものやよさに気付き、認める姿に教師が共感し、それらに気付けたことをほめて自信につなげていく。</li> <li>・遊びの中でトラブルが生じた場合には、それぞれの幼児が意見を出し合って解決していく様子を見守る。いつも同じ幼児の意見が取り上げられないことがないよう、必要に応じて助言していく。</li> </ul>



##### 日案作成への過程① 計画に基づいて展開された生活から幼児の姿を把握

###### 〈昨日までの幼児の姿〉

- 自分たちでいろいろな氷を作ろうと相談をしながら、水を張った容器をどこへ置いたら凍るか、氷集めや氷作りをして氷屋さんごっこを楽しんでいる。
- 今週月曜日に、小学校1年生との「遊びの会」で取り組んだこま回しがきっかけとなり、皆で集まっているいろいろな回し方や競争をして遊んでいる。さらに、積木で作った階段や板で作った坂道での遊びを工夫する姿があり、より楽しい遊びになっている。
- 自分たちで遊びに必要な線を引きいてリレーをしている。「先生チームに勝ちたい」という気持ちが高まり、誘い合って遊ぶが、チームの勝敗を意識するようになるにつれて、ルールを守らない姿が見られるようになり、時々トラブルが生じている。帰りの会で、先生チームに勝つために、学級のみんなでリレーに参加しようと話し合った。
- 飼育当番の4歳児への引き継ぎとして、「当番の仕方を見せる」ところから始めた。今まで自分たちがやってきたことを丁寧に4歳児に教えている姿が見られる。



##### 日案作成への過程② 幼児の実態の読み取りと教師の援助の省察から、援助の方向性を検討

###### 〈幼児の実態と教師の援助の省察〉

- 友達と話し合ったり、競い合ったりしながら、自分たちで遊びを進めていく姿が見られるので、活動の時間を十分に確保する。遊びの中で生じる問題を幼児が相談して解決したり、遊びのコツを教え合ったりするなど、友達との関わりを深めていく中で、友達の得意なことやよさを互いに感じることができるよう援助する。
- 一日の予定や今週の生活の流れのイメージが共有され、自分たちで意識をもった生活につながっている。来月の生活発表会に向けて、幼児のアイデアを取り上げながら見通しをもって話し合い、自分たちの考えが実現していく喜びと自信をもたせるとともに、学級全員で同じ目的に向かって取り組むようにする。



##### 日案作成への過程③ 翌日の指導のねらいを定め、ねらいを達成するための内容を設定

ねらい	○友達と教え合ったり、競い合ったりする中で、いろいろな友達のよさに気付く。
内容	○自分たちでルールや場をつくり、遊びを進める。 ○自分なりに見通しをもって、一日の遊びや活動を進める。



##### 日案設定への過程④ 内容を具体化して、幼児の生活の展開と援助に関する内容等を計画

[幼児の活動・活動時間の目安・環境の構成・教師の援助のポイント等] (70頁、71頁参照)

1月第4週（1月23日～1月27日）				
先週の幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭でサクサクとした霜柱を見つけたことが学級全体の話題となり、霜柱探しから氷作りへと遊びが広まった。</li> <li>・郵便ごっこやかかるた、すごろく等、文字や数に触れる機会が多くなり、書くことへの興味や関心が高まっている。書けない文字があると友達に尋ねたり、教え合ったりする姿が見られた。</li> <li>・継続して、リレー、くつとり、ドッジボールで遊んでおり、声をかけて仲間を集めたり、人数を数えてチーム分けをしたりして自分たちで遊びを進めている。5歳児チーム対先生チームでリレー勝負をしたところ、先生チームに負けた悔しさと勝ちたいという気持ちが高まって仲間を誘い、リレーに力が入っている。</li> <li>・5歳児学級では、学級では一日の予定に加えて、週や月の予定も掲示している。予定の掲示により、見通しをもった生活ができるようになってきている。</li> </ul>			
ねらい	<table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と生活する中で、互いの気持ちを考え合ったり、友達のよさに気付いたりしていく。</li> <li>○自分なりの目的をもってじっくりと遊びに取り組み、達成感や満足感を味わう。</li> </ul> </td> <td>内 容</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と思いや考えを伝え合い、一緒に遊びや活動を進める。</li> <li>○繰り返し挑戦したり、試したりしながら遊ぶ。</li> </ul> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と生活する中で、互いの気持ちを考え合ったり、友達のよさに気付いたりしていく。</li> <li>○自分なりの目的をもってじっくりと遊びに取り組み、達成感や満足感を味わう。</li> </ul>	内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と思いや考えを伝え合い、一緒に遊びや活動を進める。</li> <li>○繰り返し挑戦したり、試したりしながら遊ぶ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と生活する中で、互いの気持ちを考え合ったり、友達のよさに気付いたりしていく。</li> <li>○自分なりの目的をもってじっくりと遊びに取り組み、達成感や満足感を味わう。</li> </ul>	内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と思いや考えを伝え合い、一緒に遊びや活動を進める。</li> <li>○繰り返し挑戦したり、試したりしながら遊ぶ。</li> </ul>		
環境の援助構成のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・霜柱や氷を見つけたり、氷作り等を楽しんだりする中で、冬の自然に関心が深められるように、幼児の気付きや発見に寄り添い、耳を傾けて、学びや遊びが豊かになるように関わる。</li> <li>・リレーやドッジボールなどの競い合う遊びをする中で、共通の目的をもって楽しめるように、作戦会議と称してみんなで意見を出し合う機会をつくり、遊びを深める。</li> <li>・こま回しや縄跳び等に繰り返し挑戦し、自分の目標に向けてがんばる姿を周囲に伝えることで友達同士が刺激し合えるようにする。</li> <li>・小学校の「遊びの会」での小学校1年生との関わりをきっかけに、意欲を高められるようにする。</li> <li>・友達の得意なものやよさに気付き、認める姿に教師が共感し、それらに気付けたことをほめて自信につなげていく。</li> <li>・遊びの中でトラブルが生じた場合には、それぞれの幼児が意見を出し合って解決していく様子を見守る。いつも同じ幼児の意見が取り上げられることがないよう、必要に応じて助言していく。</li> </ul>			
予想される幼児の生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>○戸外で体を動かして遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・誘い合ってチームを作り、リレーやドッジボールをする。</li> <li>・縄跳びやこま回しなど、自分なりの目標に向かって挑戦する。</li> </ul> </li> <li>○友達と一緒に遊びの場を作って遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・氷集めや氷作り等に興味をもち、水を張った容器をどこへ置けば凍るのか友達と相談して試してみる。</li> <li>・こま回しが上達するように繰り返し遊ぶとともに、遊び方の工夫を進める。</li> <li>・リレーのスタートラインやドッジボールコートラインを引いて準備し、ゲームをする。</li> <li>・作った物や遊んだ場など、次の日の活動につながるような片付け方をする。</li> </ul> </li> <li>○飼育当番の引き継ぎをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・5歳児から4歳児へウサギやかめの飼育の当番の仕方を伝える。</li> </ul> </li> <li>○生活に見通しをもったり、生活を振り返ったりする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示してある表などを見て、月・週や一日の生活を確認する。</li> <li>・当番の幼児が「今日のわたしのニュース」として、みんなの前で発表する。</li> <li>・発表したニュースについて、質問や感想を伝え合い、話題を深める。</li> <li>・翌月の生活発表会に向けて話し合う。</li> </ul> </li> </ul>			
行事	小学校1年生との「遊びの会」			
評価観の点	<p>（幼児理解）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と生活する中で、互いの気持ちを考え合う場面や、友達のよさに気付く場面が見られたか。</li> <li>○自分なりの目的をもち、じっくりと挑戦したり試したりすることで、達成感や満足感を味わえたか。</li> </ul> <p>（教師の援助）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○幼児同士で気持ちを考え合い、互いのよさに気付いていく過程を丁寧に支えることができたか。</li> <li>○それぞれの幼児がもっている目的を捉え、そこに向かって取り組んでいく遊びの状況を整えられたか。</li> </ul>			

3 一日の指導計画（日案）の例

平成〇〇年1月25日（水）

<p>昨日までの 幼児の姿</p>	<p>○自分たちでいろいろな氷を作ろうと相談をしながら、水を張った容器をどこへ置いたら凍るか、氷集めや氷作りをして氷屋さんごっこを楽しんでいる。</p> <p>○今週月曜日に、小学校1年生との「遊びの会」で取り組んだこま回しがきっかけとなり、みんなで集まっているいろいろな回し方や競争をして遊んでいる。さらに、積木で作った階段や板で作った坂道での遊びを工夫する姿があり、より楽しい遊びになっている。</p> <p>○自分たちで遊びに必要な線を引いてリレーをしている。「先生チームに勝ちたい」という気持ちが高まり、誘い合っで遊ぶがチームの勝敗を意識するようになるにつれて、ルールを守らない姿が見られるようになり、時々トラブルが生じている。帰りの会で、先生チームに勝つために、学級のみんなでリレーに参加しようと話し合った。</p> <p>○飼育当番の4歳児への引き継ぎとして、「当番の仕方を見せる」ところから始めた。今まで自分たちがやってきたことを丁寧に4歳児に教えている姿が見られる。</p>							
<p>時刻</p>	<p>幼児の活動</p>							
<p>8:50~</p> <p>○登園する</p> <p>○「登園時の活動」をする ・「今日の予定」を見る</p> <p>○自分たちでルールを決めたり場を作ったりして遊ぶ ・こま回しをする (坂道下りや上りを競争する、階段の下り方を比べる)</p> <p>・氷で遊ぶ (かき氷屋ごっこ、ペンダント屋ごっこ、ダイヤモンド屋ごっこをする)</p> <p>・リレーをする</p> <p>○後片付けをする。 ・遊びの続きを考えて、片付け方を工夫する</p> <p>10:30</p> <p>○学級みんなでリレーをする ・チームを分ける ・勝敗を競う ・遊びのアイデアを出し合う ・友達と教え合う ・遊びのルールを話し合う</p> <p>11:45</p> <p>○給食を食べる</p> <p>13:00</p> <p>○当番活動をする ・飼育当番を4歳児に見せる</p> <p>13:30</p> <p>○降園時の活動をする</p> <p>○学級みんなで話をする ・「今日のニュース」や振り返りについて話す</p> <p>・生活発表会に向けて話し合う</p> <p>・明日の生活のイメージを共有する ・歌を歌う。 「ゆきのペンきやさん」 「やぎさんゆうびん」</p> <p>14:00</p> <p>○降園する</p>	<p>〈きょうのよてい〉</p> <table border="1" data-bbox="735 611 1088 904"> <tr> <td data-bbox="735 611 863 759"> <p>ごぜん</p> </td> <td data-bbox="863 611 1088 759"> <p>こおりやさん  こままわし  リレー </p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="735 759 863 806"> <p>ひる</p> </td> <td data-bbox="863 759 1088 806"> <p>きゅうしよく</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="735 806 863 904"> <p>ごご</p> </td> <td data-bbox="863 806 1088 904"> <p>しいくとうばん  みんなのはなし </p> </td> </tr> </table> <p>〈園庭〉</p> <p>○氷で遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前日に氷を作ろうと置いた容器にできた氷、自然にできた霜柱や氷を探す。</li> <li>・氷の厚さや大きさを比べる。</li> <li>・氷に興味をもち、考えたり試したりする。</li> </ul>  <p>↑氷ペンダント</p>  <p>遊びの中で数量や物の性質に触れる機会を見逃さずに関わっていく。</p>	<p>ごぜん</p>	<p>こおりやさん  こままわし  リレー </p>	<p>ひる</p>	<p>きゅうしよく</p>	<p>ごご</p>	<p>しいくとうばん  みんなのはなし </p>	<p>○「登園時の活動」をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の予定を見て、生活のイメージを友達と共有する。</li> </ul> <p>昨日の降園前の話し合いで出た内容について、文字だけでなく絵なども取り入れ、分かりやすく掲示しておく。</p> <p>○学級みんなで話をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当番が「今日のニュース」の発表をする。</li> <li>・質問をしたり、感想を発表したりする。</li> </ul> <p>○生活発表会に向けて話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活発表会に向け、どんな発表会にするかについて話し合う。</li> </ul> <p>自分の思いを言葉で伝える楽しさが味わえるようにする。また、生活発表会に向かって自分の思いや友達の考えを出し合えることを大切にする。</p> <p>明日の生活につながるように、話し合いのポイントを読み取ってボードに記入することで、イメージを共有しやすくする。</p>
<p>ごぜん</p>	<p>こおりやさん  こままわし  リレー </p>							
<p>ひる</p>	<p>きゅうしよく</p>							
<p>ごご</p>	<p>しいくとうばん  みんなのはなし </p>							

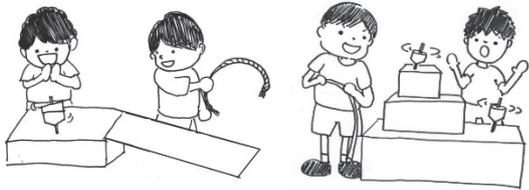
ねらい	〇友達と教え合ったり、競い合ったりする中で、いろいろな友達のよさに気付く。	評価の観点 (幼児理解) 〇友達と教え合う姿や競い合う姿が見られたか。 また、それらの遊びや活動を通じて、互いのよさに気付く場面が見られたか。 (教師の指導) 〇幼児が互いのよさに気付くきっかけとなるような遊びや活動を展開したか。 また、教え合う場面、競い合う場面での援助は適当であったか。
内容	〇自分たちでルールや場をつくり、遊びを進める。 〇自分なりに見通しをもって、一日の遊びや活動を進める。	

環境の構成（絵・表）・教師の援助（吹き出し）・幼児の活動（〇）

〈遊戯室〉

〇こま回しをする

- ・回し方に加えて、坂道や階段などを作って、遊び方を工夫する。



いろいろな回し方を楽しみ、できるようになった喜びを感じられるようにする。

昨日の遊びの続きから、友達と競争を始める姿が見られるので、教師も一緒に参加をして、こま回しへの関心を高める。

〈園庭〉

〇リレーをする

- ・昨日みんなで決めたチームに分かれ、競走する。
- ・チームごとに作戦会議をする。



ルールが分かり、チームの勝敗を競い合うことを楽しんでいる様子を確認する。

トラブルが起きたときには、幼児同士が解決していこうとする姿を見守り、みんなで考えていけるようにする。一人一人が体を動かす心地良さや、みんなで力を合わせることの喜びを感じられるようにする。



先生チームに勝ちたいという共通のイメージをもって楽しむ姿を認める。

氷の感触や形など、お互いの気付きや発見を認めたり、水を張った容器をどこに置いたら凍るのか、友達同士で相談して試したりしている姿を大切にす。

〇当番活動をする

- ・4歳児へウサギやかめの飼育当番の仕方を伝える。

飼育当番を4歳児に引き継いでいく際、時間をかけて動物たちの名前を伝えて覚えてもらったり、掃除やえさやりを見せたり、教えたりする姿を認めて成長を感じられるようにしていく。



教育課程に係る教育時間終了後に希望する者を対象に行う教育活動を利用する幼児への配慮

- ・夕方の冷え込みが厳しく体調を崩す幼児が増えているので、日中の体調の変化について気になることは保育の担当者に細やかに伝え、その後の家庭での生活へとつなげられるようにする。
- ・氷を作る遊びに興味をもっている幼児について、氷や水がどのような状態になっているか、夕方に保育の担当者と一緒に観察できるようにし、翌日の遊びにつなげる。